

■企画展に寄せて

「戦火に散った考古学者 江藤千萬樹」余録

■企画展関連行事について

■富士・沼津・三島3市博物館連絡協議会よりのお知らせ

二〇一八年一月

通巻132号

史料館通信 沼津市明治



鹿児島県 まことの電知八号
(当館所蔵)

此の三月十四日の戦は官兵を進められ中にも警部
十名巡査百名に別れ各々水の剣を抜かされ
白布に数日巻なし足袋跳しの内を攻落したり
驅入りに警部捕らざる賊軍八人即死し十人賊を
此戦に四十五人捕らざる賊軍八人即死し十人賊を
取公功大井原坂植木二ヶ所は暴徒の要の場所にて
此の戦は松永兄弟と賊將貴嶋宇太郎統て長山
別府の松永兄弟と賊將貴嶋宇太郎統て長山
の勇を振り烈しき下地を伝え此處を千途と防戦
を軍一手は植木に攻掛け是又烈しき大戦にて
官軍は植木に攻掛け是又烈しき大戦にて
勝負わからず

吉報次号へ送る
明治十年三月廿六日御届
四月 出版

明治10年(1877)に発行された錦絵新聞です。錦絵新聞とは、記事を浮世絵の一種である錦絵一枚に視覚的に表現したもので、これは「西南戦争もの」と呼ばれる大阪で発行されたシリーズです。左から2番目の人物がNHK大河ドラマの主人公西郷隆盛です。田原坂の戦いの様子を伝えています。

企画展に寄せて「戦火に散った考古学者 江藤千萬樹」余録

私事から始めて恐縮だが、小学生の頃、畑などで土器を拾い歩く遊びをしていた。土器を拾っては古代人がここに住んでいたのだ、と夢想してワクワクしたことを覚えている。だが、土器拾いは遊び以上のものにはならず、「考古学」に憧れをもっていった時期もあったが、高校を出て郷里を離れるころには土器たちは行方不明になっており、大学で専攻することもなかった。

さて、今回の企画展は「江藤千萬樹」である。知る人ぞ知るところだろうか。私が江藤千萬樹を扱ったのは、市制九〇周年記念企画展「近代沼津人物列伝」(二〇一三年)において、九〇名のうちの一人として取り上げたのが最初であった。学生時代に読んだ藤森栄一の『かもしかみち以後』で江藤千萬樹の名に覚えはあったし、沼津市史叢書として『江藤千萬樹考古学論集』が平成二十一年に刊行されていたこともあった。最近では澤宮優氏が『考古学エレジー』の唄が聞こえる』で紹介しているが、広く知られているとは言い難い人物である。しかし、だからこそ市立の歴史博物館で扱う必要があると考え、当館としては久々(昭和六十年の間宮喜十郎展以来か)の単独の人物を主題とした企画展として開催することにした。

と云いつつ、千萬樹展は担当した学芸員(つまり私)の個人的な思いが先行した展示であった。かつて憧れていた「考古学」に若き情熱を捧げたひとりの若者の生き様をより深く知り、広く紹介したい、という思いであり、かつての



祀られているご神体



左口神社
(東椎路)

考古学への憧憬を昇華させようというところもあったかもしれない。ふだんならもう少し展示資料の見通しがたつてから実現へと歩を進めるものなのだが、時間がなかった(これはいつもどおりだが)のも相俟って、完全なる見切り発車したのであった。

とはいえ、「考古学」については憧憬以上のものは持ち合わせていない門外漢であることにかわりはなく、そのギャップを埋めるために相当時間を割く必要があった。通常年2回の企画展を担当しているため、通常時から時間はいくらあっても足りないのであるが、今回は下地が無い分尚更であった。しかしながら、今回、企画展として開催することが決まっただけの準備は、やや不謹慎かもしれないが、いつにもまして楽しいものであった。『江藤千萬樹考古学論集』の千萬樹の論文を読みこむことに始まり、あるときは「ハーモニカ少年隊」の歩いた道を(自動車で)辿って、彼らが見つけた遺跡の跡を探して写真におさめ、またあるときは碑文谷派や東京考古学会の根城であった目黒界隈を歩き廻って、当時の学生の気分を味わい、千萬樹が弟子にしてくれと懇願した藤森栄一に関する資料を求めて諏訪に行ったり、千萬樹が最も敬愛した七田忠志に送った数々の書簡を読み、千萬樹の情熱とそれゆえの失望感など、彼の青春に思いを馳せ、自分と重ね合わせてみたりもした。とにかく楽しかった。ご観覧いただいた方々に伝われば、それこそ学芸員冥利に尽きるというものである。



金岡村にて

(七田忠昭氏所蔵)

左から塩川・江藤・乙益・七田・長田

さて、展示準備の最終盤になって判明したため展示に反映することができなかったが、重要な事実が判明したためここに記しておく。ひとつは左口神社の件である。今回展示させていただいたこの神社のご神体(「異形石器」)は、本展においては数少ない千萬樹が実際に調査したモノであった。江藤の論文では当然のことながら数多くの遺跡・遺物について述べられているのだが、その中でも「異形石器」は左口神社のご神体ということで異彩をはなっている。しかし、江藤がいかにして左口神社の「異形石器」に辿りついたかについては、論文中で全く触れられておらず謎のままであった。企画展準備の過程で左口神社に係る事柄については東椎路の江本家にお世話になった。この江本家は左口神社の氏子六軒のうちの一軒であり、この江本家の先代の当主江本巳一が江藤千萬樹と沼津中学校で同級生であったことが判明したのである。昭和二十年七月十六日未明の沼津大空襲で東椎路にも焼夷弾が落とされ、江本家も被災して記録などは焼失してしまい、江本巳一も故人のため今となっては推測でしかないのだが、千萬樹は同級生の江本巳一の教示によって左口神社のご神体を調査したのである。

もう一点。本展に千萬樹が七田忠志に宛てたハガキ、書簡及び写真をご提供いただいた七田忠昭さんから、新たな写真が発見されたというお知らせとともにこれまで未出の写真をお送りいただいたので、ここで紹介したい。

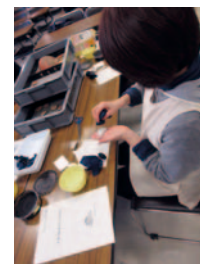
写真には「昭和十二年七月 静岡県沼津市外金岡村ニテ 考古学研究旅行 (ミヲ坂の発掘地ニテ)」と、長田・七田・乙益・江藤・塩川の名が裏書されている。「江藤千萬樹年譜」の昭和十二年七月の項には、ミヲ坂遺跡発掘調査、東京都杉並区井荻の縄文時代炉跡の固定、岩手県水沢市の駒形神社の宝物調査、が記されているが、金岡村については記述がない。七月十日のミヲ坂遺跡(三島市錦田)の試掘調査の折に金岡村を訪れ、撮影されたものである。江藤の論文から金岡村所在の遺跡としては山之神、漆畑、堂坂林、八兵衛屋敷、馬場、広合、芝原境、清水柳、木戸上などが挙げられるが、ここでは前年暮れに千萬樹たち「ハーモニカ少年隊」が発見した清水柳遺跡を見学したと考えたい。とすると、右端の年配男性は清水柳の地主であろうか。

(文中敬称略)

土器の拓本をとってみよう！

日時：①平成 29 年 12 月 23 日（祝）10 時から
 ②平成 30 年 1 月 20 日（土）13 時 30 分から
 会場：当館 2 階講座室

講師に沼津市文化財センターの学芸員をお迎えし、土器の拓本を取る講座を開催しました。実際に沼津市内の遺跡から出土した土器を使うとあって、少しどきどきしながら作業に挑戦しました。出来上がった拓本は、台紙に貼ってパウチをして仕上げました。



ギャラリートーク

12月16日（土）・1月20日（土）11時から

寒さの厳しい中ご参加くださった皆さん、本当に熱心に学芸員の解説に耳を傾けていらっしゃいました。会の最後には「戦死しなかったら沼津の考古学界はどうなっていたのかなあ？」というご質問も出ました。



ギャラリートーク
3回目

2月17日（土）
11時から開催します。

ご参加お待ちしております！

参加者募集中

歴史講演会

『江藤千鶴樹の人と学問』

講師：設楽博己氏（東京大学大学院教授）
 日時：平成 30 年 2 月 4 日（日）14 時から（会場は 13 時 30 分）
 会場：当館 2 階講座室
 申込：電話または直接ご来館の上お申し込みください。先着 60 人

企画展パンフレット販売

平成 29 年度
 第 2 回企画展
 「戦火に散った考古
 学者 江藤千鶴樹」
 解説パンフレット

好評販売中
 一部 100 円



富士・沼津・三島 3 市博物館連絡協議会からのお知らせ



平成 30 年（2018）は、明治元年（1868）から満 150 年の年に当たります。3 市博物館連絡協議会では、「幕末・明治の富士・沼津・三島」と題し、平成 29 年度は歴史講座を、平成 30 年度は企画展を開催いたします。歴史講座は下記の日程で、参加費は無料です。ぜひお申込の上ご参加ください。

*企画展については次号でお知らせする予定です。

富士山の日 無料開放

2 月 23 日（金）は富士山の日で観覧料が無料になります。

1 階ロビーの展示ケースで「ミニ富士山展」を開催しています。当館所蔵の富士山が描かれた絵画や、浮世絵などをご覧ください。

定方塊石画
 狩野川と富士山→



三島会場 伊豆地域の近代化と旧蘆山代官所

講師 今村直樹氏（熊本大学永青文庫研究センター准教授）
 日時 平成 30 年 1 月 28 日（日）14 時～16 時
 会場 三島市民生涯学習センター 5 階研修室
 定員 55 名（要事前申込）
 申込 三島市郷土資料館へ電話または直接来館にて申込
 （平成 29 年 12 月 20 日から受付開始、先着順）

沼津会場 幕末維新の戦乱と駿河・伊豆の民衆

講師 樋口雄彦氏（国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学教授）
 日時 平成 30 年 2 月 24 日（土）14 時～16 時
 会場 ぬまづ健康福祉プラザ・サンウェルぬまづ 4 階多目的ホール
 定員 300 名（要事前申込）
 申込 三島市郷土資料館へ電話または直接来館にて申込
 （平成 29 年 12 月 20 日から受付開始、先着順）

富士会場 明治前期駿州における静岡藩誕生と武士の帰農 — 駿州富士郡の場合 —

講師 杉山容一氏（東北学院大学・東北文化研究所客員研究員）
 日時 平成 30 年 3 月 17 日（日）14 時～16 時
 会場 富士山かぐや姫ミュージアム 講座室
 定員 40 名（要事前申込）
 申込 富士山かぐや姫ミュージアムへ電話または直接来館にて申込
 （平成 30 年 3 月 6 日から受付開始、先着順）

沼津市明治史料館通信

第 132 号

平成 30 年 1 月 25 日

編集・発行 沼津市明治史料館
 〒410-0051 沼津市西熊堂 372-1
 TEL055-923-3335
 FAX055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社



グリーンマーク 古紙・パルプ配合率70%再生紙を使用